

具体的な姿を目指すための手立てとして、以下の「学びの枠組み」「縦の接続」「横の連携」の3点を設定し、全体構想図として次ページにまとめました。

① 【学びの枠組み】

地域を学びのフィールドとし、「人・もの・こと」を存分に生かしたキャリア教育
→地域の人（人材等）、もの（企業等）、こと（素材等）から学びながらキャリア教育を推進することです。

② 【縦の接続】

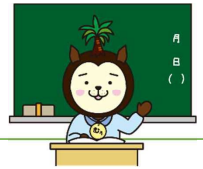
学びをしっかりとつなぎ、経験を積み上げていくキャリア教育
→小学校から中学校へ、そして高等学校等へとキャリア教育の学びをしっかりとつなぐことです。各段階におけるキャリア教育の目標を整理し、「縦の接続」を位置付けています。

③ 【横の連携】

学校・家庭・地域・産業界・行政等が連携し、一体となって進めるキャリア教育
→全ての立場の方々が同じベクトルを向きながら、一体的にキャリア教育を推進していくことです。「学校におけるキャリア教育の推進」と「家庭・地域と連携・協働したキャリア教育」とともに、「県キャリア教育支援センター」と「市町村キャリア教育支援センター等の連携支援」の「横の連携」を位置付けています。

また、特別支援教育の視点や家庭・地域と連携・協働する視点を意識しながら、宮崎県のキャリア教育を幅広い視点で取り組んでいくことも位置付けています。

宮崎県のキャリア教育の全体構想図



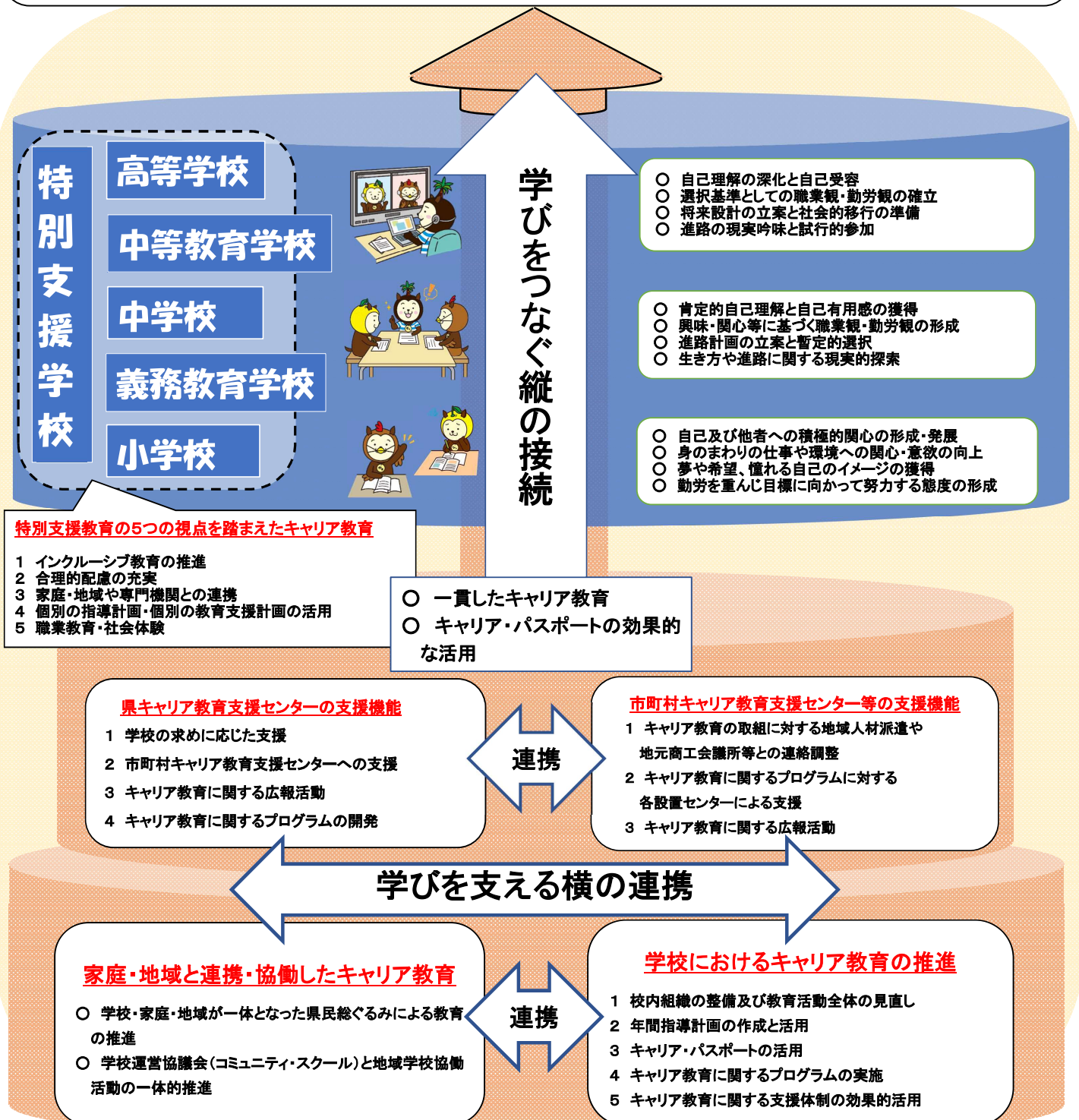
みやざきのキャリア教育で目指すもの

自立した社会人・職業人の育成

ふるさとを想い、多様な人々と関わりあいながら主体的に社会参画をし、自己実現に向けて学び続ける人

みやざきのキャリア教育

- ◇ 地域を学びのフィールドとし、「人・もの・こと」を存分に生かしたキャリア教育 【学びの枠組み】
- ◇ 学びをしっかりとつなぎ、経験を積み上げていくキャリア教育 【縦の接続】
- ◇ 学校・家庭・地域・産業界・行政等が連携し、一体となって進めるキャリア教育 【横の連携】



2 児童生徒の発達を重視したキャリア教育【縦の接続】

現在の知識基盤社会*1では、あらゆる領域での活動の基盤として、新しい知識・情報・技術が非常に重要となっています。しかも、この知識・情報・技術をめぐる変化は加速度を増し、グローバル化の進展等によって、一つの出来事が広範囲かつ複雑に広がるなど、社会の変化の正確な予測は、ますます難しくなっています。

一方、人生100年時代の到来により、長くなった生涯の中で、2つ以上の仕事をもつことや、多様な形で様々な社会活動を行うことが、より一般的になると思われます。

さらに、Society 5.0の時代の到来により、人々の働き方や職業そのものが抜本的に変わると予測される中、ライフステージ*2の様々な段階での学び直しも、より重要になると考えられます。

こうした変化の激しい社会を生き抜いていくためには、県民一人一人が、生涯にわたって自己実現を目指し、質の高い学びを重ねて、それぞれの立場や分野で成長し続ける力を身に付けることが必要です。そして、一人一人の学びが地域や社会に還元され、学びが循環する社会づくりを進め、生涯学習社会*3の実現を図る必要があります。

このため、子どもたちの教育においては、幼児期の教育から、小中学校等、高等学校、特別支援学校等での教育、大学等での高等教育までをしっかりと接続し、学校種間の連携を更に深めるとともに、各学校が社会に開かれた教育課程の実現に努め、学校と社会とのつながりを深めていくことが重要です。

宮崎県においては、「子どもから大人までの学びのつながり・接続」を大切に、小中学校等、高等学校、特別支援学校等の場において、子どもたちが学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けるために、勤労観・職業観の確立やコミュニケーション能力の育成、様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることなどを旨とし、各学校段階のつながりを意識したキャリア教育を推進します。

*1 新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性を増す社会。

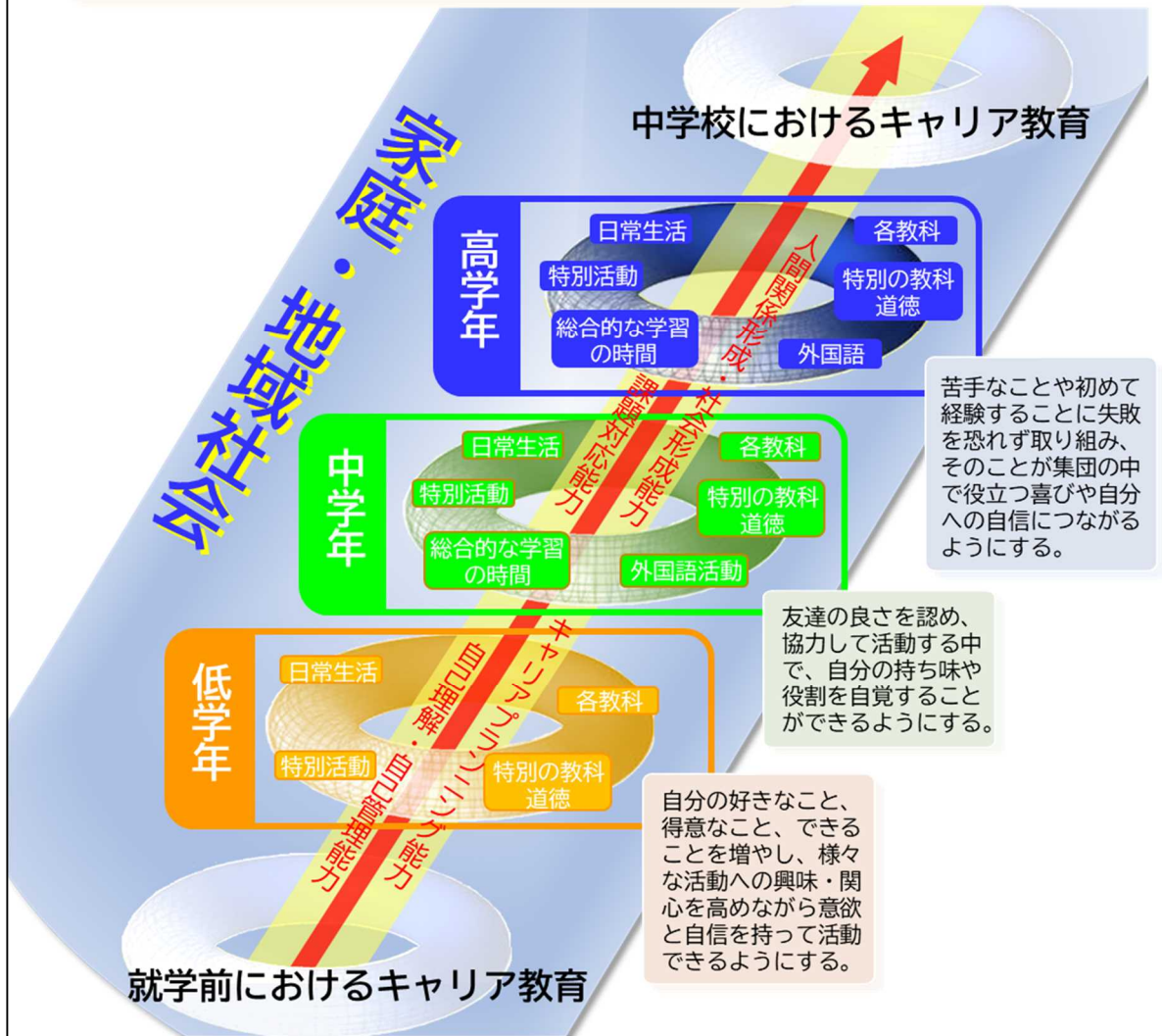
*2 人生における段階を意味する。(例) ①乳幼児期②青少年期③成人期④高齢期

*3 生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所で学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会。

小学校におけるキャリア教育の全体像

小学校におけるキャリア教育の目標

- ▶ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- ▶ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- ▶ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- ▶ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成



参考：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

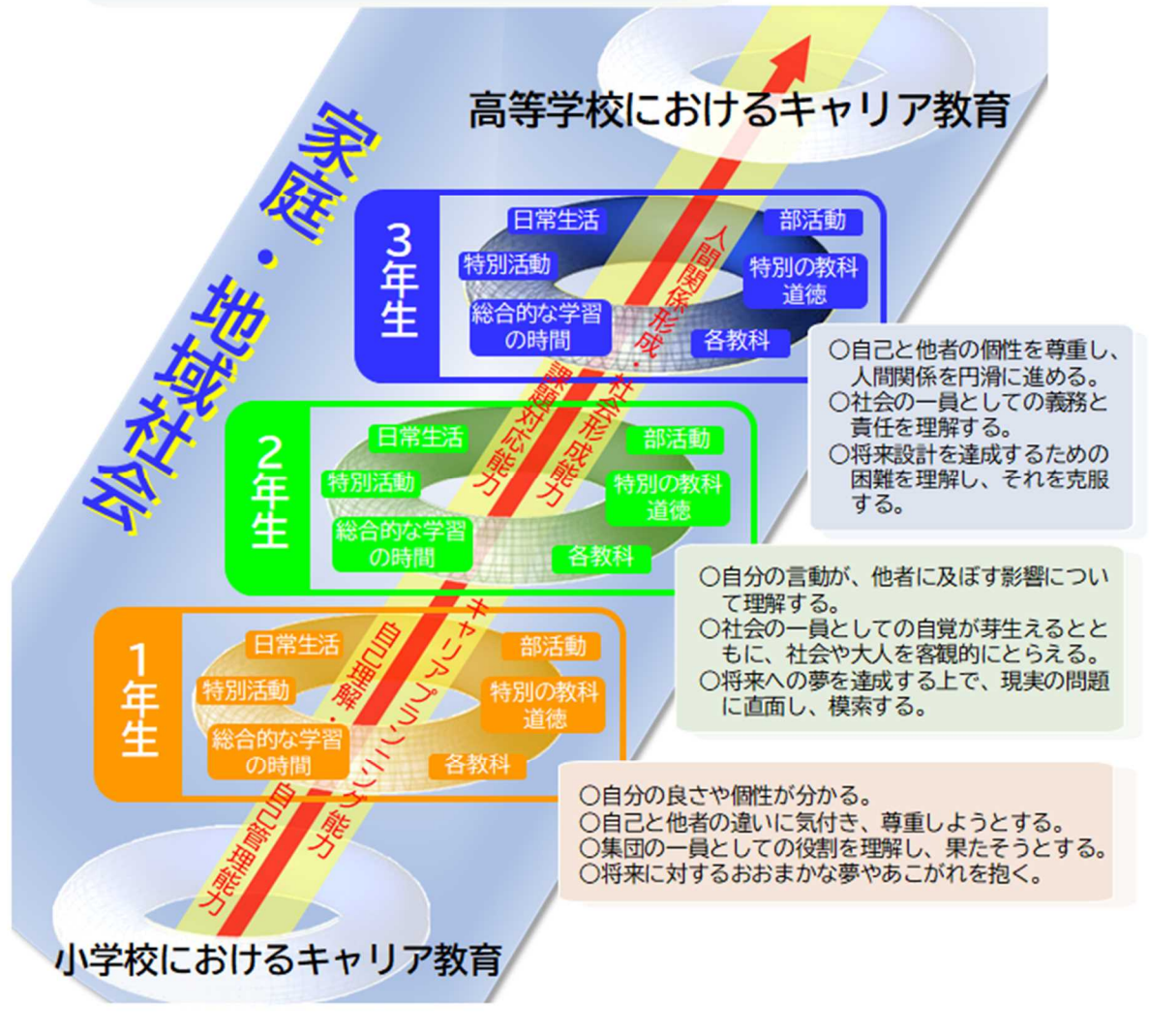
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、その教育等に関わる者が、互いに育っていくことや育ってきたことを理解して、子どもたちの資質・能力を育んでいくために幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領等に示されたものです。これは5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して、資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿で、指導を行う際に考慮するものであり、到達目標や個々に取り出されて指導するものではありません。

中学校におけるキャリア教育の全体像

中学校におけるキャリア教育の目標

- ▶ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- ▶ 興味・関心に基づく勤労観・職業観の育成
- ▶ 進路計画の立案と暫定的選択
- ▶ 生き方や進路に関する現実的探索

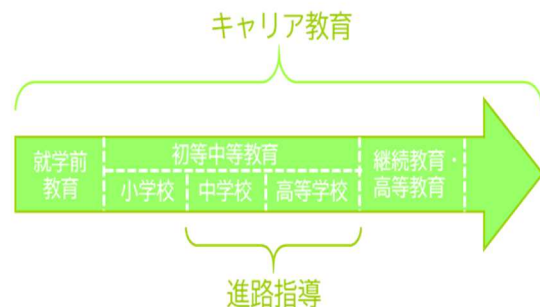


参考：キャリア教育と進路指導との関係

キャリア教育は、就学前段階から初等中等教育・高等教育を貫き、また学校から社会の移行に困難を抱える若者（若年無業者）を支援する様々な機関においても実践されるものです。

一方、進路指導は、本来、理念・概念やねらいにおいてキャリア教育と同じものですが、中学校・高等学校に限定される教育活動です。このようなキャリア教育と進路指導との関係を図示すると右図のようになります。

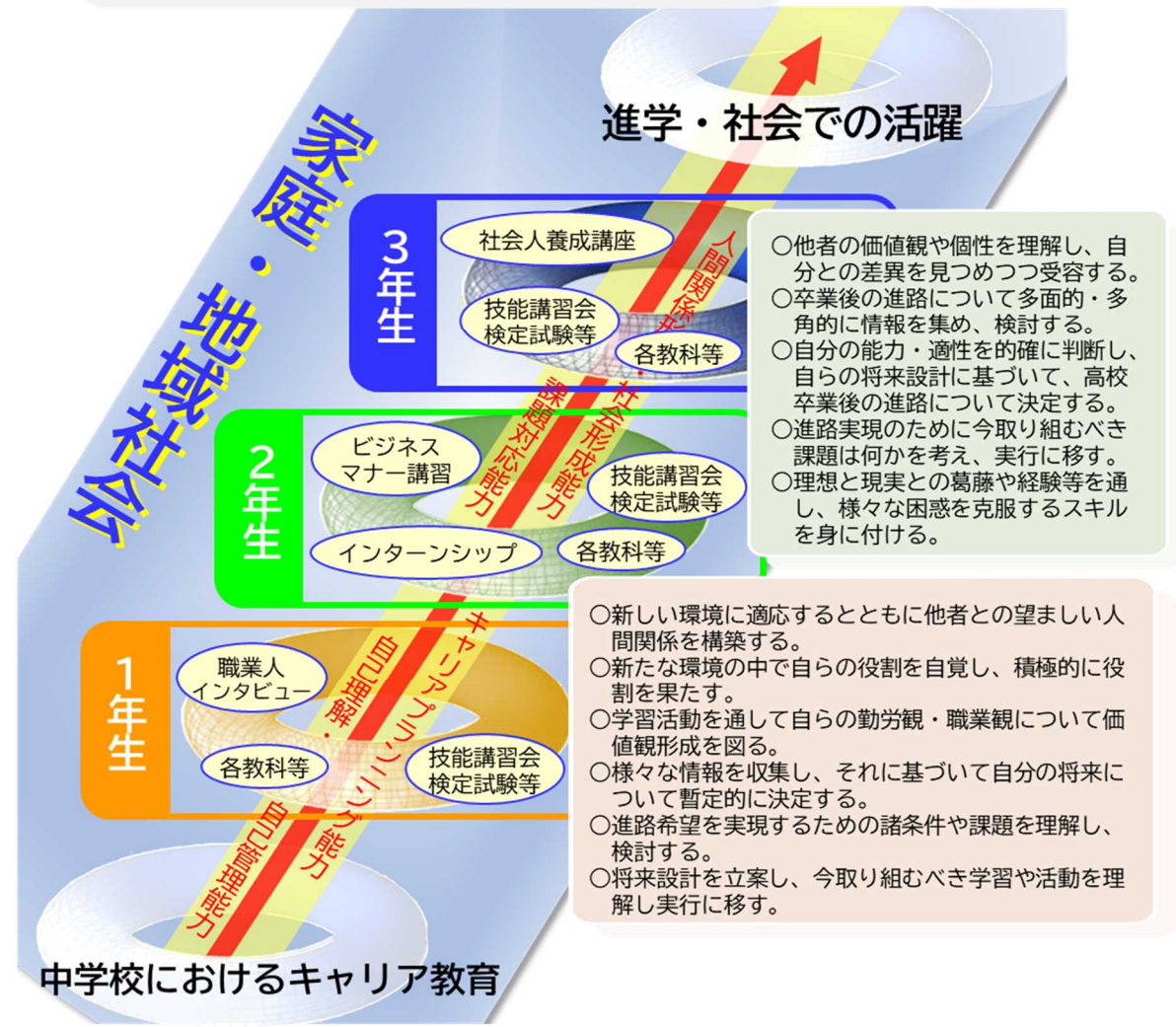
入学試験や就職試験に合格させる支援や指導に終始する「進路指導（＝出口指導）」は、「本来の進路指導」の理念からかけ離れており、キャリア教育との混同は是非とも回避する必要があります。



高等学校におけるキャリア教育の全体像

高等学校におけるキャリア教育の目標

- ▶ 自己理解の深化と自己受容
- ▶ 選択基準としての勤労観、職業観の確立
- ▶ 将来設計の立案と社会的移行の準備
- ▶ 進路の現実吟味と試行的参加



参考：異校種におけるインターンシップ等の目的の違い（※特に高等学校は学科や地域性にもよる）

中学校職場体験	高等学校インターンシップ	大学インターンシップ
<ul style="list-style-type: none"> ・職業観・勤労観の形成 ・ある職業や仕事を窓口としながら職業や仕事を知る ・働く人の実際の生活に触れて社会の現実に向き合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観・勤労観の形成と確立 ・将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動を試行的に体験する ・体験を手掛かりに社会・職業への移行準備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観・勤労観の確立と深化 ・体験を通して専門的な知識・技能を身に付ける ・社会・職業への移行を見据えて、より現実的なイメージを持つ

3 家庭・地域と連携・協働したキャリア教育【横の連携】

平成 29～31 年告示の学習指導要領において、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と地域・家庭等が共有し、各学校が「社会に開かれた教育課程」の実現に努め、未来を創っていく子どもたちに必要な資質や能力を育てることが示されました。

社会に開かれた教育課程を実現するためには、これまでの学校・家庭・地域が連携した取組を基盤としながら、地域の企業やNPO*1、市民団体等の多様な主体が連携・協働して一体となった取組や、教育と福祉の連携等、分野の垣根を越えた取組などを、より充実・強化していく必要があります。

また、人口減少時代や人生100年時代の到来を見据え「持続可能で魅力と活力ある地域づくり」と「未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の人づくり」の関わりを考えることも大切です。子どもも大人も共に学び合い、学んだ成果を地域づくりに生かすなど、県民一人一人が当事者意識をもって主体的に「参画」できる活動の充実がますます重要になってきます。

キャリア教育は、子どもたちに社会的・職業的自立の基盤となる確かな力などを組織的・計画的に育成していく営みです。地域の方々は、キャリア教育の充実を考えたとき、仕事や子育て、地域活動やボランティア、文化・スポーツ活動など様々な活動に取り組んでおり、子どもたちにとって、かけがえのない貴重な教育資源になります。

現在、県内の多くの学校で、地域の方の協力を得ながら、地域の中に課題を見出し、解決策を考え、実践するような活動がキャリア教育の一環として行われていますが、これらの活動は、子どもたち一人一人のキャリア形成を育む上で、地域社会の一員としての自覚を促す貴重な機会にもなっています。

このように、子どもたちを取り巻く全ての大人が、育み、支え、導く存在としてつながり、「県民総ぐるみ」で、未来を担う本県の子どもたちの教育に携わっていくことが、これから更に求められてきます。

宮崎県においては、人と人との「絆」、地域や社会における様々な「絆」を、より強く確かなものとしていくことが重要であると考えており、このような「絆」が、緩やかなネットワークを形成しながら、様々な課題に取り組んでいけるような社会づくりを目指し、「横の連携」の充実・深化を推進していきます。

*1 Non-Profit Organization の略。様々な分野で主体的に社会貢献活動を行う民間の非営利活動団体のこと。「特定非営利活動促進法」によって認証を受けたNPOを「NPO法人」という。

【家庭・地域と連携・協働したキャリア教育 ～概念図～】



【各コーディネーターの役割】

○ キャリア教育支援センター (キャリア教育コーディネーター)

① 県キャリア教育支援センター (エリア担当のコーディネーター)

キャリア教育の普及・推進を専門的に実施

- ・キャリア教育の推進についての協議や相談、校内研修、探究的な学びへの支援
- ・各種研修会等における講演や「よのなか教室」の講師
- ・市町村キャリア教育支援センターの支援及び新規開設に向けた啓発活動
- ・キャリア教育に関する活動への支援「対話型キャリア教育プログラム (ひなた場)」「ジョブシャドウイング」等の実施

② 市町村キャリア教育支援センター (市町村毎に1～3名のコーディネーター)

(延岡、日向、高鍋、小林、日南、都農 R4.3.31)

学校のニーズに応じて、地域や商工会議所等と連携して人材派遣を調整等

○ 地域学校協働活動の本部：地域学校協働活動推進員 (地域コーディネーター)

「社会教育法第9条の7」に基づき教育委員会が委嘱することができる地域住民等と学校との連絡調整等を行うコーディネーターです。

- ・地域ボランティアの募集と派遣の調整等
- ・学校における教育活動の調整等